

ヒノキ漏脂病の予防

福島県林業研究センター森林環境部
平成16年度福島県林業研究センター業務報告

- 1 部門名 林業一病虫獣害一防除方法
分類コード18-10-29000000
- 2 担当者 在原登志男・齋藤 直彦
- 3 要 旨

ヒノキ漏脂病の病原菌は*Cistella japonica*とされているが、発生誘因については諸説があつて十分な結論が得られていない。そこで、発生誘因の調査を行ったところ、発生誘因は主に枯れ枝の巻き込みであることが判明した。つぎに、発生誘因にそつた被害林の解析を行った。

- (1) 生枝打ちをしても枝基部が残る(残枝)場合は、罹病する。
- (2) ヒノキの枝は活力が低下すると、枝付着部の幹に窪みが生じて、幹と平行に枝を打つても「残枝」が残るようになる。「残枝」の残らない枝付着部の幹の太さはおおむね6cmから10cmの間にあつて、肥大成長のよい個体ほど細い幹でも「残枝」が生じた。
- (3) 実際に枝打ちを行つて「残枝」の有無と罹病状況を調査したところ、「残枝」の残るまたは残りやすい個体ほど罹病率が高まつた。
漏脂病の予防には、「残枝」の残らない枝打ちが有効である。

4 その他の資料など

- (1) 東北森林科学会誌第8巻2号(2003)
- (2) 第114回 日本林学会学術講演集(2003)
- (3) 森林防疫第5巻12号(2003)
- (4) 東北森林科学会第8回大会講演要旨集(2003)
- (5) 森林防疫(投稿中)